



令和2年度 学校だより

はがきた

第7号 令和2年9月30日

教育目標

集中して学び、生命と人権を守り、生きる力の基礎を身に付けた子どもを育成する。
『学ぶ子 守る子 がんばる子』

暑さ寒さも彼岸まで。

秋涼の候、保護者の皆様におかれましては、御健勝のことと申し上げます。あの暑かった夏はいつしか過ぎ、朝夕、少しずつ涼しさが増してくるようになってきました。16日に行われたスポーツフェスティバルは、保護者のみなさんにお見せすることはできませんでしたが、児童の元気いっぱい一生懸命な取組が見られました。数人の児童に聞いてみると、「今日は疲れた」という答えがかえってきましたが、同時に「とても楽しかった」と続き、満足気な表情を見せてくれました。とてもうれしい気持ちになりました。2学期には、他にも、修学旅行や遠足を予定しています。行事は日常生活にはない特別な経験ができます。その経験は、決して楽しいことばかりではなく、我慢をしたり苦しい思いをしたりすることがあると思います。それが心身の大きな成長につながっていきます。日常生活でも、いろいろな経験を積ませることにより、児童の成長を助けていきたいと考えています。御協力よろしくお願いいたします。

先週の9月22日は、秋分の日でした。昼と夜の時間が同じになる日ですので、これからは、だんだん日が短くなり気温が低くなってきます。体調管理をしっかりとするとともに、まだまだコロナウイルス対策もしていきましょう。季節的には過ごしやすい季節になります。〇〇の秋！いろいろなものに挑戦してみるのもいいですね。



電子黒板、各教室に配置される！

この夏、芳賀町の各小中学校には、各教室に1台ずつ電子黒板が設置されました。65インチもある大型ディスプレイで、提示装置としての機能はもちろん、インターネットやデジタル教科書の利用、画面への書き込みなど、その用途は多様です。8月26日には、ICT支援員さんに来校していただき、どのように使うと効果的かの講習会を行いました。先生方は、いろいろな活用の仕方を熱心に講習していました。今学期が始まり約1か月が経ちますので、いろいろな授業で、少しずつ活用していると思います。また、国のGIGAスクール構想の一環として、児童一人一人が使えるタブレットが導入されます。こういったICT機器を使い、児童がより一層わかりやすくなる授業を目指していきたいと思っています。



★ 10月の主な行事 ★

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| 1 (木) 登校バス早便遅便交換
PTA広報委員会 | 14 (水) 町教育委員来校 |
| 6 (火) 宇大学生ボランティア来校
更生保護女性会ボランティア来校 | 15 (木) 巡回相談 |
| 7 (水) 北小タイム(校長講話)
委員会④ | 21 (水) 教育相談員北野先生来校 |
| 8 (木) 巡回相談 | 22 (木) 修学旅行①(6年)
秋の遠足(1~5年) |
| 13 (火) 腎臓検診1次
緑の募金、赤い羽根募金(~10/15) | 23 (金) 修学旅行②
巡回相談 |
| 14 (水) 町学校運営協議会委員来校 | 26 (月) 校内読書週間(~11/6) |
| | 28 (水) 就学時健康診断 |
| | 31 (土) イングリッシュ・キャンプ |



☆児童たちの活躍・学校生活の様子☆

【タブレットを使った授業】

【稲刈り体験】



(6年)



(5年)

「ありがとう」は「有り難い」

「ありがとう」という言葉はいろいろなランキングで1位に選ばれています。例えば、
 ・21世紀に残したい言葉1位 ・子供が大人から言われてうれしい言葉1位
 ・自己肯定感を育む言葉1位 ・彼氏に求めている言葉1位

何か、「ありがとう」の5文字には、とても魅力的で強いパワーが秘められているようですね。実際、「ありがとう」の言葉をもらうと嬉しくなりますし、他人に「ありがとう」と言うと幸せが深まります。



「ありがとう」の語源は仏教の『盲亀浮木（もうきんぼく）のたとえ』にあり、仏教では人間に生まれることが「有る」ことが「難しい」、「有り難い」ことだと教えられています。人間に生まれることがどれほど難しいか、他の生き物と比較して考えてみましょう。世界の人口は増えたといっても約77億人と言われていますが、他の生き物の数は比べものにならないくらいの数です。例えば、アリの数は約一京（一兆の一万倍）で、昆虫の総数は百京にも上るといわれます。全生命の総数ともなると、もはや計り知れません。そう思うと、人間に生まれることが、いかに困難で有り難いことなのかわかります。滅多にないことというより、奇跡という言葉がふさわしく感じます。ここから他人から何かをしてもらえることは「有る」ことが「難しい」、「有り難い」こと、「ありがたいこと」となり、「ありがとう」となったそうです。

「ありがとうの日」も存在します。それは3月9日、サンキューの日です。サンク（thank）はシンク「think」（考える、思う）に通じ「サンキュー（Thank You）」は、「あなたのことを思っていますよ」ということで、「あなたからの御恩（親切）を忘れていませんよ」といった心なのでしよう。他国の「ありがとう」という言葉の語源も調べてみるとおもしろそうですね。



「ありがとう」の反対語は何でしょう。「有り難い」の逆の意味なので、「あたりまえ」ということになります。あたりまえという言葉からは、感謝の気持ちは生まれてきませんね。生まれるのは不平不満。これでは幸せは逃げてしまいます。人間に生まれたことを有り難く感じ、親に心から「生んで育ててくれて、ありがとう」と言えるようになりたいものです。

ところで、ポルトガル語の「ありがとう」の「オブリガード（obrigado）」が「ありがとう」の語源ではないかという、まことしやかな説があるそうです。「おぶりかど」⇒「あぶりかど」⇒「ありがと」⇒「ありがとう」おおっ！これは？いやいや、ポルトガル語が日本に伝わったのは16世紀ですから、それ以前にあった「ありがとう」の語源にはなりえないですね。失礼しました。

「この世で最も不幸な人は感謝の心のない人である」という言葉があります。感謝できる人が幸せなのであり、その感謝を「ありがとう」という言葉で表すと、相手も「喜んでもらえてよかった」とうれしくなります。「ありがとう」と言える人、「ありがとう」と言ってもらえる人になりたいものです。



※芳賀北小ホームページでは、カラーで学校だよりを掲載しています。ぜひ御覧ください。